

ウガンダ共和国におけるエイズ遺児を支援する

MUKWANO ムクワノ



2006 年度 事業報告書

(MUKWANO設立 2006 年4月1日から 2007 年6月 30 日まで)

2007 年 10 月

はじめに

世界はグローバリゼーションが進むなか、一部の富める人々と多くの貧しい人々に二極化、先進国と途上国だけでなく、それぞれの国内において格差社会が拡大しています。アフリカ諸国もその類のひとつであり、不平等な社会が形成されつつあります。

エイズによって両親をはじめ、愛する人を喪う子どもが後を絶ちません。国連合同エイズ計画（UNAIDS）の報告によれば 2006 年末で世界の HIV 感染者数は 3,950 万人、2006 年中の新たな感染数は 430 万人、同年のエイズ死亡者数は 290 万人。現在、エイズで親を亡くした子どもの数は 1,500 万人以上とされています（UNICEF）。その大半がアフリカ大陸サハラ以南の国々の子どもらです。

大切な人たちの死や、そこまでに至る過程を目の当たりにした子どもたちの心には、深い傷が残ります。更に、病人や幼い兄弟姉妹の世話、治療・薬代を得るための仕事、農作業など、本来はおとなが担う苛酷な「おとなの仕事」を担わなくてはなりません。こうした子どもらの多くが、食事も満足に摂れず、学校にもいけない状況に置かれ、子ども家長世帯が増加傾向にあります。貧困、飢餓、教育の不均等、搾取的労働、売春、非行など、すべての社会経済問題がエイズ遺児の身の上のしかかっています。

本年 2007 年は、1982 年のアフリカ、ウガンダ共和国で初めてエイズが発見されて以来 25 年、四半世紀を迎えます。その間、多くの人々がエイズで命を落とし、その結果、多くの遺児が生まれました。これまでの HIV/エイズ対策は、大人への支援に偏りがちであり、今後はエイズ遺児を含めた未来ある子どもらへの支援が急務です。

MUKWANO ムクワノ設立

エイズ遺児を支援する団体 MUKWANO ムクワノは、世界的課題となる HIV/エイズ問題に目を向け、特に子どもに焦点を絞り、東アフリカ・ウガンダ共和国ラカイ県に、エイズで親を喪った子どものための孤児院・職業訓練所を建設しようと永谷裕香（発起人）が呼びかけ、ボランティアグループとして 2006 年 4 月 1 日より活動を始めました。

ムクワノは、人間の安全保障の視点からエイズ遺児の人権と生活の安全が守られる社会の実現を目指す地域に根ざした NPO を目指します。2007 年 5 月に特定非営利活動（NPO）法人申請を東京都へ行い、2007 年 10 月に NPO 法人

格を取得しました。



子ども家長世帯、両親のお墓のまゝで

※ MUKWANO とはウガンダ共和国現地語ガンダ語で「親しい友・愛する友」という意味です。ウガンダ共和国ラ

カイ県にて、多くのエイズで親を喪った子どもらに出逢い、厳しい生活を目の当たりにし、その喪われた愛を私たちが埋めようと願いを込めて、当会を「MUKWANO ムクワノ」と称しました。

活 動

1. エイズ遺児自立支援事業(ウガンダ共和国)

(1) Samanya Orphans Group(サマニャ遺児グループ)と活動協力について

2006年8月、代表の永谷 裕香がウガンダ共和国を訪れ、Samanya Orphans Group(ウガンダ共和国ラカイ県認証団体)代表ジョン・センキマ氏と今後の活動について協議しました。現在ある建物では増え続けるエイズ遺児のニーズに対応することができず、学校運営においても不十分です。そこで、ムクワノの支援で、孤児院・職業訓練所の建設を提案、センキマ氏と合意しました。

現在、Samanya Orphans Group では、エイズ遺児約230人が登録されています。うち両親を喪ったエイズ遺児、子ども家長世帯は100人以上にのぼります。なお、孤児院・職業訓練所竣工後はムクワノと共にプロジェクト運営、方法論について協議の予定です。



サマニャスタッフとの打ち合わせ

(2) 孤児院・職業訓練所建設プロジェクト

2007年2月から、ムクワノ内にて設計委員会を開き、設計士筒井康二氏の協力のもと、設計図を作成、現地設計士エノック・チバム氏に設計図の再調整を依頼し、最終設計図が仕上がりました(なお、両設計士にはボランティアとして無償で設計図の作成をお願いしました)。

設計図作成後、細見一雄氏(ウガンダ在住)と業務委託契約を結び、現地コーディネーター全般をお願いしました。建設責任者にアンドウリュ・センゴンバ氏を決定、建設予算の見積もり作業を行い3,560,000円と算定しました。なお建設地は、活動協力団体「Samanya Group」と協議のもと、その敷地内に建設することで同意しました。

2007年5月12日、ウガンダ共和国ラカイ県ルワマグワ郡において、エイズ遺児のための孤児院・職業訓練所の建設を開始しました。工事は順調に進み、6月末に第一期工事、8月末に第二期工事が完了、現在、第三期工事に入っています。ただ、現場において資材不足、ウガンダ国内の経



サマニャの子どもたちもレンガ運び

済情勢の変化による物価高騰などの影響を受け、建設見積もり額を修正せざるをえなくなりました(最終総工費 4,300,000 円になる見通し)。



第一期工事完了、一本の木を中心に7棟の建物が並びます

2. 社会啓発事業(日本)

(1) ウガンダの子ども絵画展

2006年7月29日から8月11日までの2週間、Café Malle(東京都目黒区)にて「ウガンダの子ども絵画展」を開催しました。ウガンダの子どもたち、エイズ遺児たちの描いた絵を観ていただきながら、エイズ遺児の現状、アフリカ全般について知ってもらう機会となりました。なお、会場は Café Malle さんのご好意により無償提供いただき、写真展材料費などはボランティアの方々に協力いただきました。

(2) Peace Quest チャリティコンサート 2007(スプートニク ジャパン主催) バザー出展

2007年6月16日、スプートニク・ジャパン主催「Peace Quest チャリティコンサート 2007」にてバザー出展を行いました。当日は会場奥にてムクワノのブースを設け、カードとクッキーの販売を行いました。コンサート参加者は約200人。大勢の方にムクワノの活動を知っていただく機会となりました。

(3) 講演

HIV/エイズ、エイズ遺児の現状について講演活動を続けています。2006年4月1日ムクワノ発足以来、2007年6月30日までの間、東京、福岡、奈良など、計6か所で講演活動を実施しました。今後も、積極的な講演活動を予定しています。

3. 募金(寄付金収入)

2005年10月、代表がウガンダ共和国ラカイ県での孤児院・職業訓練所建設プロジェクトへの寄付活動を開始。2006年4月に任意団体 MUKWANO を発足し6人のメンバーで再スタート。2006年8月までに当初目標額の3,000,000円を達成。その後も、ウガンダにおけるエイズ遺児自立支援事業への募金活動を継続しています。

(ムクワノ募金口座)

銀行:みずほ銀行 自由が丘支店(普) 2415583 特定非営利活動法人 MUKWANO
郵便局:郵便振替 00100-5-261838 「ムクワノ」

4. その他

(1) ホームページ開設

2006年6月より、現地情報、国内事業などの広報活動のためムクワノのホームページを開設しました(<http://www.mukwanojapan.com/>)。ホームページを見て応援して下さる人が少しずつ増えています。今後、リニューアルを予定しています。

(2) 特定非営利法人(NPO)格取得について

2007年2月より、NPO法人化へ向け準備を始め、3月25日、法人化へ向けた設立総会(場所:東京都新宿区)を開きました。その場にて理事・監事が選任され、全会一致で承認されました。なお法人化へ向け、ムクワノは大田区大森北にある協同オフィス「ぷらっとホーム大森(おた市民活動推進機構)」内に事務所をおくことになりました。

2007年5月、東京都へ特定非営利法人(NPO)認証申請を行い、2007年10月にNPO法人格を取得しました。

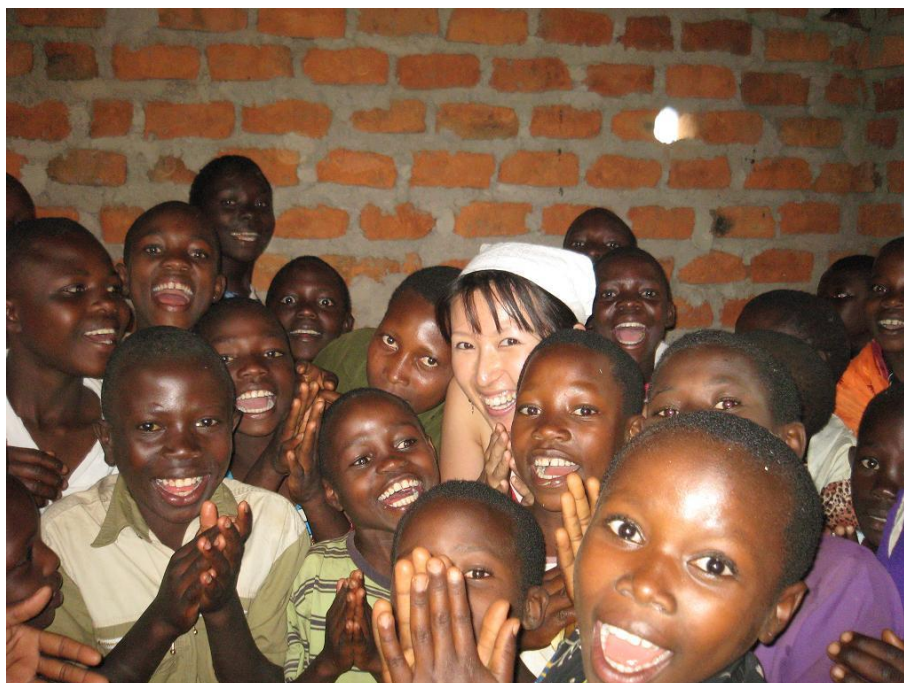
(3) メディア報道

以下のとおり、各種メディアにより、ムクワノの活動が報道されました。

| | 日時 | タイトル | メディア |
|---|------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 1 | 2005年3月から 2007年2月まで | 「ウガンダ日記」 | 福岡フリーパーパー 「お大事に」連載 |
| 2 | 2006年7月 | 「ウガンダのエイズ遺児」 | 雑誌「女性自身」 |
| 3 | 2006年8月 | 「ウガンダ共和国・エイズ遺児」 | テレビ西日本 |
| 4 | 2007年1月5日 | 「笑顔」 | 西日本新聞 |
| 5 | 2007年2月10日 | 「希望のない丘 アフリカのエイズ遺児を救え」 | テレビ西日本で放送 後、4月にフジテレビ で放送 |
| 6 | 2007年3月31日 | 「記者の目」 | ユニセフ機関紙 |
| 7 | 2007年6月5日 | 「ウガンダ共和国での活動」 | 北海道 FM NORTH WAVE |

(4) 記録

現地から届けられた写真です。まだまだ問題は山積しています。子どもたちの安全が守られ、自活できるように私たち MUKWANO は現地のニーズに合ったサポートをしていきます。



建設中の孤児院のなかで、子どもたちと永谷代表



毎日 10 キロ以上の道のりを水汲みへ。が、手に入るのは茶色く濁った不衛生な水ばかり・・・



エイズは、ときに子どもたちから“笑顔”を奪う。

両親を亡くし、子どもだけで住む家が急増中。子どもの安全は・・・

MUKWANO ムクワノ
東京都大田区大森北 1-30-1 三喜屋ビル2F
「ぷらっとホーム大森」内
Email: info@mukwanojapan.com